

平成29年度「防府市通学路安全推進会議」会議録概要

- 1 開催日時 平成30年2月16日（金） 午前10時00分～午前11時00分
- 2 開催場所 防府市役所1号館3階第1会議室
- 3 出席委員 11人（代理出席：2名、欠席1名）
- 4 概要 （発言要旨の文章表現は、簡略化している。）

（以下「防府市通学路安全推進会議」を「会議」として表示する。）

（1） 教育長あいさつ

（2） 会長：小野中学校 赤道校長、副会長：生活安全課 森田課長 選出

（3） 議事

以下のとおり

【会長】 「議事1 平成29年度の防府市通学路交通安全プログラムの実施について」事務局より説明をお願いする。

【事務局】 「平成29年度の防府市通学路交通安全プログラムの実施状況について」説明（資料1に基づき、平成29年度の通学路交通安全プログラムの進捗状況、今後の予定を説明）

【会長】 説明についての質疑等あればお願いします。

特に無いようなので、続いて、「議事2 平成29年度通学路危険箇所の安全対策実施について」事務局より説明をお願いする。

【事務局】 「平成29年度通学路危険箇所の安全対策実施について」説明（資料2、資料3に基づき、平成29年度合同点検実施箇所について、学校ごとに説明。資料4に基づき過年度の通学路未対策箇所について件数を紹介）

説明についての質疑等あればお願いします。

特に無いようなので、続いて、「議事3 その他」何かあるか。

【教育長】 高齢者の運転の死亡事故が問題になっている。今回の通学路の点検においても離合の難しい狭い道路が危険箇所として上がっているが、警察として高齢者に対する指導とともに、狭い道に対し何かしていただけないか、要望を含めた質問であるがお願いしたい。

【警察】 交通事故は高齢者が問題になっているが、実は免許取立ての若い人も問題となってい

る。アクセルとブレーキの踏み間違えは20代に多い。なかなか表には出ないが、30年、40年前から問題になっている。

毎日死亡事故が発生し、未だ死亡事故が0という日はない。

高齢者の自主返納制度についてだが、免許証を返納した後もトラクターに乗る。車を処分しないと乗ってしまう。

横断歩道を見たら止まる。交差点で人が横断していればドライバーは止まる等、歩行者優先を社会全体でやっていかなければならないと考える。

小学校での交通安全学習では「先を見る。考える。正しい行動をする。」等、小学生の頃から良く勉強し、大きくなっても思いやりのある運転をするよう伝えている。

小学生、中学生、高校生、児童生徒の安全が第1であると考え、それを改善すればおのずから高齢者への対策へつながると考える。

【藤本】 昨日もニュースで、自転車でスマホしながら、ジュース飲みながら東京の方で大学生が他人を死亡させている。今、中学生・小学生は自転車に乗る機会が多い。学校単位で指導されていると思うが、安易に考える子どもが多いと思うので、厳しく指導した方がよいのでは。

【会長】 交通教室等について小学校ではどのように行われているか。

【中川】 本校は3年生、4年生で県警の交通安全教室を実施している。
学校では、「自分の命は自分で守る。」という指導を行っている。
自転車については、この3、4年生の2年間において行う。
自転車も軽車両なので歩行者にぶつかれば、賠償等もあることを指導している。

【関谷】 中学生・高校生はスマホ以外にもヘッドホンをつけて自転車に乗っている。外からの音が遮断されるため、車が近づいていることに気づかない。「自分の命は自分で守る。」という意識付ける活動は毎年実施し、根付かせていかないと事故が減りにくいのではないか。

【藤本】 交差点や狭いところでスピードを出すことについて、オーストラリアでは交差点の前にスピードを落とすような山がある。試験的にそういう対策をやってみればよいのでは。

【道路課】 昨年度、天神様の前の道路で狭窄により通過速度を落とすという施策の一つの手法として、ハンプ（凸凹）をつけ、1ヶ月ほど試験をした。
その際、速度は落ちるが、隣接の住民の方の理解が第1になる。トラックは音が出るし、積荷に対する影響等を考えなければならない。地元の理解が必要であるが、地元以外にも通行する方の苦情も多くなる。
複合的な対策を考えていかなければならない。
国交省でも高さ、距離等、ハンプのつけ方について指針が出ている。ハンプをつける場合はその指針に基づくが、課題があるのが実情と思っている。

【会長】 設置する場合もさまざまな課題があるということが分かった。安全面優先でご理解をいただきながら施設、物を増やしていくということで、交通安全に対する意識が高まればと思う。

【中川】 本校校舎の改築工事を行っているが、学校舎内徐行と書いていても徐行しない。子供たちとすれ違わないよう、子どもたちには中を歩かせている。

工事はグラウンドの南を通らせており、薄いコンクリートを張って、コーンを置いてジグザグにしているが、舗装のところを先程の対策（ハンプ）の基準に合わせて実施しても賠償問題になった時が不安である。

- 【道路課】 先程の説明は道路法上の設置における条件である。ハンプメーカーのカタログには大きい工場の中でつけているものも見受けられる。工場内での判断でつけられており、組織の中での判断において実施されている。
開発団地の中には、小さいハンプをつけていることもある。開発の際に（開発業者が）ハンプをつけているが、市はそのハンプごと引き取っている例もある。開発の時は家がなく道のみであるが、それを条件に家を求められて購入されており、ハンプがあることに関しての苦情はないと聞いている。
管理者が管理するものであり、従業員や職員の理解、学校であれば、PTAの理解も必要になるのではないかな。
- 【関谷】 先程の自転車のことであるが、阿知須では、中学生が反射ベストを着用している。防府市では見ないが、特に夕方とか安全性の面で有効であると思う。
- 【会長】 安全ベストを着用して登下校している中学校は、防府市内にはない。
私は、柳井中の時に安全ベスト着用の取組を始めた。
手順としては、まず、警察、交通安全協会等に「安全を確保したい」ということでお願いし、ベスト購入費の半分の補助金として出してもらおうという交渉を始めた。自転車通学の場合は、許可制の場合にヘルメットと同様に着用を義務化するという形で広めた。それが市内中学校全校に波及した。
ヘルメットはかぶるもの。他の市町では、学校によって違うが、休日もヘルメットを着用することを義務化している学校や進めている学校もある。それとセットでベストも必ず着用するという取り組みはかなり効果があり、好評だった。
- 【教育長】 防府市ではヘルメット着用についての指導は行き届いている。
以前、蛍光ジャケットを着用していたように思うが、今は見ない。確認してみる。
ただ、市内中心部の大規模校は基本的には通学時の自転車を認めていない。華西中、小野中、大道中等、周辺部は自転車通学をしているが、身を守るという意味では必要であると思う。
- 【関谷】 特にこの時期、夕方のクラブ活動等の帰りににおいては非常に有効であると思われる。
- 【会長】 他に何か。
- 【関谷】 会議の時間帯を早いか遅いかに検討していただきたい。
2時間のために年休をとり、1日つぶれてしまう。夕方4時以降や早い時間であれば、他の方も融通がつけやすいのでは。サラリーマンのPTA会長は多いので、検討していただければと思う。
- 【会長】 事務局の方で検討していただきたい。
- 【会長】 貴重なご意見をいろいろいただきありがとうございました。まず、人が優先という大原則を、家庭、学校、職場、地域という様々なところで啓発することが必要である。
特に学校では自転車の乗り方についてのマナーについて、小中学校の継続的な、確実

な指導が、必要であるというご意見が多かったように思う。
また、通学路の安全に関わるさまざまな機関についても、いろいろな工夫により子どもたちの安心安全を確保できる対策を講じていただきたいということだったと思う。
大変有意義な話し合いになった。ご協力ありがとうございました。

(4) 学校教育課長より閉会の挨拶